

令和元年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業 報告書

南会津町 木賊集落

×

東洋大学 国際観光学部 佐々木茂ゼミ



目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. はじめに | 3 |
| 1-1. 研究室概要 | 3 |
| 1-2. 当事業における主な活動内容 | 4 |
| 2. 集落概要 | 4 |
| 2-1. 位置について | 4 |
| 2-2. 資源について | 5 |
| 2-3. 人口について | 5 |
| 2. 調査概要 | 5 |
| 2-1. 視察目的 | 5 |
| 2-2. 視察スケジュールと内容 | 6 |
| 3. 調査結果 | 7 |
| 3-1. 令和元年8月8日-8月10日の活動での調査結果について | 7 |
| 3-2. 令和元年10月25日-10月27日の調査結果について | 8 |
| 3-3. 令和2年1月17日-1月18日の調査結果について | 13 |
| 4. 今後に向けて | 14 |
| 5. 謝辞 | 16 |
| 6. 参考文献・ホームページ | 16 |

I はじめに

1-1 ゼミナール紹介

東洋大学国際地域学部国際観光学科佐々木茂ゼミナールは、佐々木茂先生の御指導のもと、主に「地域活性化」と「マーケティング」について学ぶゼミナールである。ゼミナールの活動の内容としては、2年生の秋学期に入ゼミしてから半年間はマーケティングに関する文献を読み、マーケティングについての知識をつける。その後、地域活性化を実践的に学ぶのは3年生になってからである。3年生になると、グループ分けを行いグループごとに福島県南会津町の課題を抽出し、新規提案までの流れをグループ論文としてまとめ上げる。グループごとに南会津町を訪問する回数は違うが、訪問するたびに町の職員の方、地域住民の方と議論、交流を図っている。4年生は南会津町の館岩地区にある木賊集落の活性化に向けて、年に数回木賊集落を訪問し、調査や集落住民の方と意見を交換する機会を作っている。

また、佐々木茂ゼミナール（以下佐々木ゼミ）は、現役生とOB・OGの繋がりがとても強いのが特徴の1つである。OB・OGを学校に招いてビジネスに関する講義の開講や、就職相談会等を毎年開催している。

以下に当ゼミナールの教授である佐々木茂教授のプロフィールを記載する。

佐々木茂教授 プロフィール

佐々木 茂 (Sasaki Shigeru)

- ・ 所属：国際観光学部国際観光学科
- ・ 職位/学位等：教授/博士（商学）
- ・ 専門分野：マーケティング、流通システム、地域発国際戦略、国際観光交流
- ・ 著書・論文等
 - ・ 新版・地域マーケティングの核心－地域ブランドの構築と支持される地域づくり（共著）

[同友館]

- ・ 「おもてなしを考える－地域マーケティング論」（共著）[創文企画]

- ・ 研究キーワード
 - ・ フランスの経済と文化事情、ニュージーランドの観光と農業、米国のまちづくり
 - ・ 地域発国際戦略（自治体）、地域ブランド、地域マーケティング
 - ・ 国際観光交流、観光まちづくり、社会起業家

（出所）東洋大学ホームページより

図1：佐々木茂教授のプロフィールについて
（東洋大学公式ホームページの内容を参考にゼミナール生作成）

1-2 当事業における主な活動内容

当事業において、本年度、我がグループ（東洋大学国際観光学部佐々木茂ゼミナール）は9名のゼミナール生で活動してきた。昨年、当事業とは別にゼミ活動として南会津町全体の調査を行った。本年度はその際の現地でのヒアリングを踏まえ、当事業の中で南会津町木賊集落をフィールドとして現地で住民の方の話を伺いながら地域の現状及び課題を把握し、集落独自の活性に必要な手がかりを模索するため現地調査・アンケート調査、それらを踏まえた分析を行った。

2. 集落概要

2-1. 位置について

木賊集落は福島県南会津郡南会津町の館岩地区内に属し、野岩鉄道の会津高原尾瀬口駅から車で40分の場所に位置している。駅から県道352合線を館岩地区方面にまっすぐ進み、木賊入り口交差点を1度左折するだけなので、比較的わかりやすく、行きやすい場所である。南会津町の玄関口である会津田島駅からは車で県道289号線、401号線をまっすぐ進み、約1時間で到着する。また、集落沿いには西根川が流れており、さらに対岸にはさいたま市立小中学校の生徒が体験利用する、さいたま市立館岩少年自然の家がある。

【木賊集落の位置】

福島県



(出所)福島県庁公式ホームページ
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01010d/koho-chizu.html>

南会津町



(出所)南会津町公式ホームページ
<http://www.minamiaizu.org/kanko/map/>

図2：木賊地区の位置について

(図内に記載のあるホームページの内容を参考にゼミナール生成成)

2-2. 資源について

集落内の資源は、①温泉と②自然の2つに種別することができる。①の温泉についてだが木賊集落は、別名木賊温泉という温泉のある集落である。その歴史は深く1000年になると言われている。古くより“会津の隠れ湯”と呼ばれており、温泉周辺に木賊が群生していたことが名前の由来だそうだ。木賊温泉には広瀬の湯、岩風呂の2件の共同浴場がある。中でも岩風呂は、西根川沿いにある混浴露天風呂であり、ここ数年は毎年豪雨による土砂災害で建物が流されてしまっているものの、集落住民や根強いファンの協力によって幾度と無く再建され、現在に至る。また、木賊温泉にはそれぞれの宿に根強いファンがいる宿泊施設が営業されている。②の自然については前述にあるように、木賊集落は西根川沿いにある集落である。この西根川では岩魚が良く獲れることで定評があり、溪流釣り解禁の時期になると多くの釣り客が訪問する。旅館、民宿では釣り券を販売している。また、集落周辺には長卸山という登山ができる山がある。この山は比較的楽に山頂まで行くことができることから、登山初心者の方が訪問することも多いそうである。昨年ゼミ生も実際に登ってきたが、30分から45分程度で登山口から山頂を通り、ゴールまで登り終えることが出来た。

2-3. 人口について

木賊集落の人口についてだが、住民基本台帳のデータによると平成30年4月1日で男性が41人、女性が49人の計90人となっている。その内の49名が65歳以上である為、高齢化率は54.44%と高齢化が進んでいる集落と考えられる。

2. 調査概要

2-1. 視察目的

前述のとおり、本事業とは別に昨年度から南会津町をフィールドに活動しており、町内の館岩地区に所属する木賊集落の現状について当グループにおいては次のように把握していた。南会津町館岩地区の木賊集落は、典型的な過疎地域であり、高齢化が進み空き家が増加している。一方で、河原などに湧出する野趣に富んだ露天の温泉や昔懐かしい自在鉤のある農家が運営する民宿、そして、美しい湧き水を利用したイワナ料理など、地域ならではの資源と、古き良き日本をそのままにくったくのない地元の人々と味わうことの出来る豊かな地域である。さらには、さいたま市立館岩少年自然の家には、年間を通じて小中学生が滞在する。現状では、彼らは地域の人々との交流が出来ていないが、少しずつ体験活動なども提案しながら交流の機会を増やすことは可能であろう。さらには、川沿いの露天風呂が自然災害のために破壊されても、昔からのファンがいて、支援の資金を拠出してくれたり、復旧作業を手伝ってくれたりしている。こうした外部の人たちとの関係を活かした、関係人口活用型の創生が可能な地域でもある。こうした外部の人を空き店舗を活用しながら繋げることで、地域の創生を展開したいと考えている。

以上のように把握している中で、本事業の今年度は実際に木賊地集落の活性化を図るための具体的な提案を行うための事前調査を行うことを目的として現地視察を行うこととした。

2-2. 視察スケジュール

本年度の視察スケジュールに関しては以下のように活動を行った。

| 日付 | 内容 |
|--------------------------|--|
| 令和元年 8 月 8 日-8 月 10 日 | <ul style="list-style-type: none"> ・集会所の方と意見交換 ・集落の視察 ・周辺の野山の調査 ・温泉の調査 ・集落の方へ調査報告と意見交換 |
| 令和元年 10 月 25 日-10 月 27 日 | <ul style="list-style-type: none"> ・台風 19 号による被害を受けた木賊集落の復旧作業 ・南会津町を訪れる観光客の木賊地域への意識、木賊温泉を訪れる観光客の木賊地域への意識、木賊地域の住民の木賊温泉への意識に関するアンケート調査の実施。 |
| 令和 2 年 1 月 17 日-1 月 18 日 | <ul style="list-style-type: none"> ・冬の木賊地域の実態の調査 |

表 1：本年度の視察スケジュール
(ゼミナール生が本年度の活動内容を元に作成)

2-3. 具体的な活動内容について

①令和元年 8 月 8 日-8 月 10 日の活動について

木賊集落にて共同浴場、空き家、自然の調査を行った。源泉の温度が低い共同浴場の広瀬の湯の活用方法や、コンテンツ作り、空き家の活用方法に関する調査をヒアリング中心に行った。調査最終日である 8 月 10 日にはヒアリングや現地調査で見つけた課題を踏まえ、住民の方向けに提案を行った。

②令和元年 10 月 25 日-10 月 27 日の調査について

台風 19 号の豪雨の影響による土砂で崩壊してしまった岩風呂の土砂撤去作業等を行う予定であったが、調査直前に降り続いた雨により川が濁流となっていたため、岩風呂の復旧作業は断念することとなった。それに代わり集落の区長さんの畑が土砂に埋もれてしまったためこちらの畑の復旧作業を行い、南会津町を訪れる観光客の木賊地域への意識、木賊温泉を訪れる観光客の木賊地域への意識、木賊地域の住民の木賊温泉への意識に関する調査を

三種類のアンケートを配布し、アンケート調査も行った。

③令和2年1月17日-1月18日

冬の木賊地域を訪問し、冬の地域の実態と、台風19号の被害を受けた岩風呂の様子について調査を行った。

3. 調査結果

3-1. 令和元年8月8日-8月10日の活動での調査結果

当初の目的では、増え続ける空き家問題に関しての調査を行うことであった。しかし、区長さんをはじめとした住民の方々との意見交換会にて、住民の方々が日常的に使っている共同浴場の「広瀬の湯」の経営が厳しく、来年にはなくなるかもしれないという危機的状況にあることがわかった。意見交換を行うことで住民の方々との距離を縮め、本音を聞くことにつながるということがわかった。

この意見交換会を踏まえて、「広瀬の湯」「空き家」「観光に際する基礎機能」の3つにテーマ分けを行い、翌日から現地調査を行った。

問題となった広瀬の湯は源泉のままだと37度ほどしかなく、ボイラーを使って沸かしていることがわかった。この光熱費が、経営難を引き起こしている問題であると考えられた。ここで、木賊地区には長卸山での登山や、釣りなどのアクティビティを楽しむことができる。ここに着眼し、夏場のアクティビティの後であれば、少しぬるいお湯の方が長く浸かることができるのではないかと考えた。このことから、夏場は資源をそのまま生かし、ぬる湯で経営することで、コスト削減になることを、事例を調べた上で提案した。また、ホームページの解説など、広瀬の湯を認知してもらうための情報発信をしていくことも必要であると考えた。



写真1：広瀬の湯

(令和元年8月9日 ゼミナール生の撮影)



写真2：空き家と木賊地区の一本道

(令和元年8月9日 ゼミナール生の撮影)

続いて空き家も実際に視察させて頂いた。経営されなくなった民宿や、高齢となったために自立した息子と引っ越してしまったために空き家になった民家などがあることがわかった。茅葺屋根の立派な空き家もあった。使われていない空き家が多くなることは景観上もよくはないことである。権利の問題等もあるため、すぐに貸し出しはできないこともこの調査でわかった。しかし、一度活用が可能となれば良い空間となり得るものも多くあることもわかった。この調査にて、急にカフェを運営するなどの活用は、住民の方々の負担にもなる上に管理が非常に難しくなることから、観光客と住民の交流スペースとなる場所をまずは作ることが必要であると考えた。

続いて基礎機能についてだが、前述した長卸山を登った際に、手すりなどが無いことがわかった。また、頂上にも小さな看板があるのみで、達成感を味わえる工夫はなかった。他にも観満の滝の看板は木と同化しており、我々もはじめは気づくことができなかった。このことから、住民の方には気づきにくい、観光客ならではの視点から、基礎的な機能を整える必要があることがわかった。はじめから手すりなどのハード面に手をつけるのは難しいことから、マップの作成を提案した。インターネット上に木賊地域を楽しむためのマップがあれば、観光客にもれなく資源を認知させることができる。以上の3点に関して、調査の最終日に住民の方々、役場の方々に提案をして調査を終えた。

3-2. 令和元年10月25日-10月27日の調査結果について

夏の調査を踏まえて、木賊集落の発展のために今ある資源を最大限に生かす具体的な提案を考えました。その結果、どのようなことをするにもまずは、住民の方々の考え方や、ターゲットを考えるためのデータが必要であると考えました。そこで、まずは南会津町の観光客に向けたアンケート、住民に向けたアンケートを作成しました。配布時期は2019年10月25日から2019年10月27日に配布を行い、回収時期は2019年11月12日から11月14日であった。回収部数は観光客向けのアンケート調査を130部、木賊民宿向けのアンケート調査を18部、木賊住民向けのアンケート調査を25部回収することが出来た。

アンケート調査の分析結果を以下に述べていくが、まずはグラフ1から分かるように、南会津町はリピーターが非常に多くなっている。この特徴を生かすことが、木賊温泉に観光客を呼び込むための重要な鍵となると考えた。また、グラフ2から南会津町に訪れている旅行者のおよそ8割は自家用車で来ていることが分かった。グラフ3,4から、南会津町に来ている観光客の約半数は木賊温泉を認知しており、一方で、実際に訪れたことのある観光客は4割に満たないことが分かる。

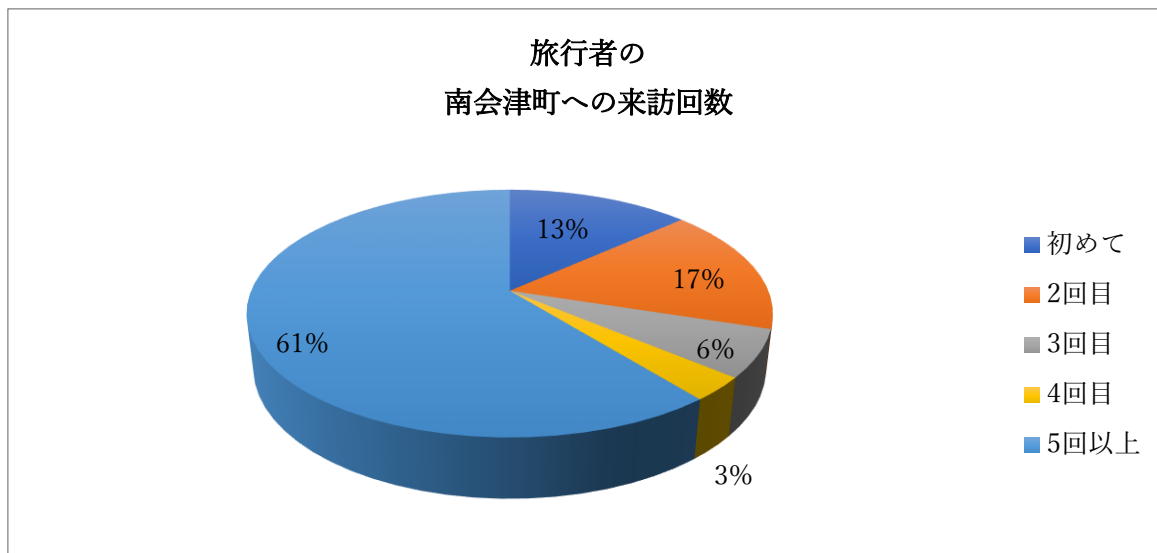
続いて、木賊温泉に来ている旅行者の属性について整理していく。木賊温泉に来ている旅行者は、関東圏に住む40代から70代の観光客が多い(グラフ5、グラフ6より)。

そこで年齢別に木賊温泉に訪れている旅行者の割合を出した。南会津町の旅行者で、40代から60代の約6割は木賊温泉に訪れたことがないと答えた(グラフ7より)。

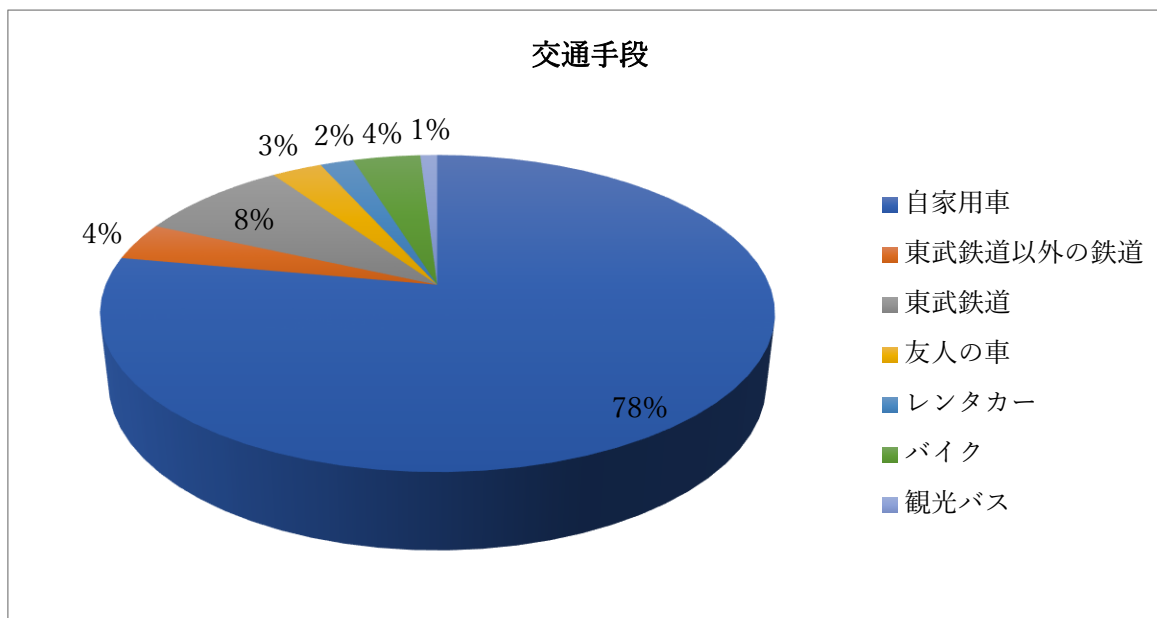
また、木賊温泉を認知したきっかけとしては、友人の勧めという回答が最も多くなってい

た。(グラフ8より)

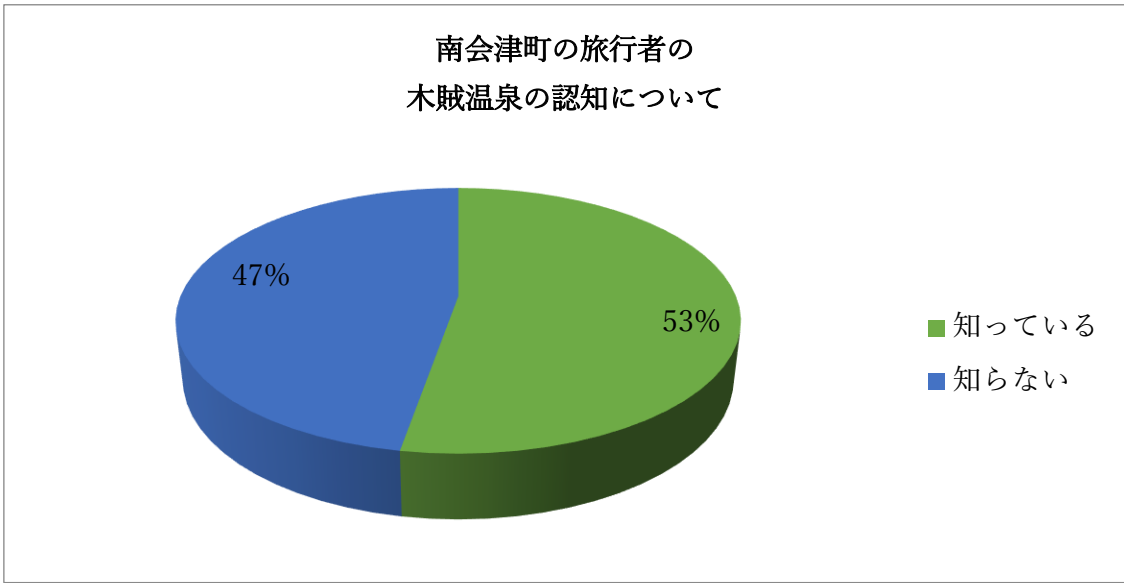
以上のことから、夏の調査の時点で考えた3つの提案を行うにあたって、ターゲットとなる層は南会津町に来ている旅行者で、40代から60代の関東圏に居住する人々がよいのではないかと考えた。



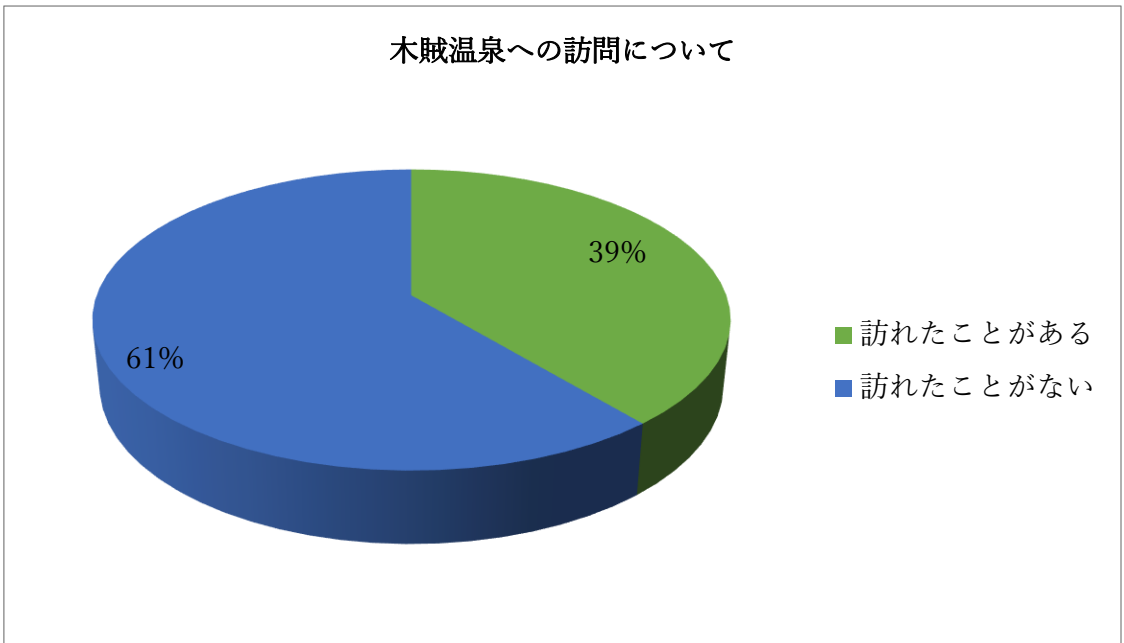
グラフ1 アンケートを元にゼミナール生作成



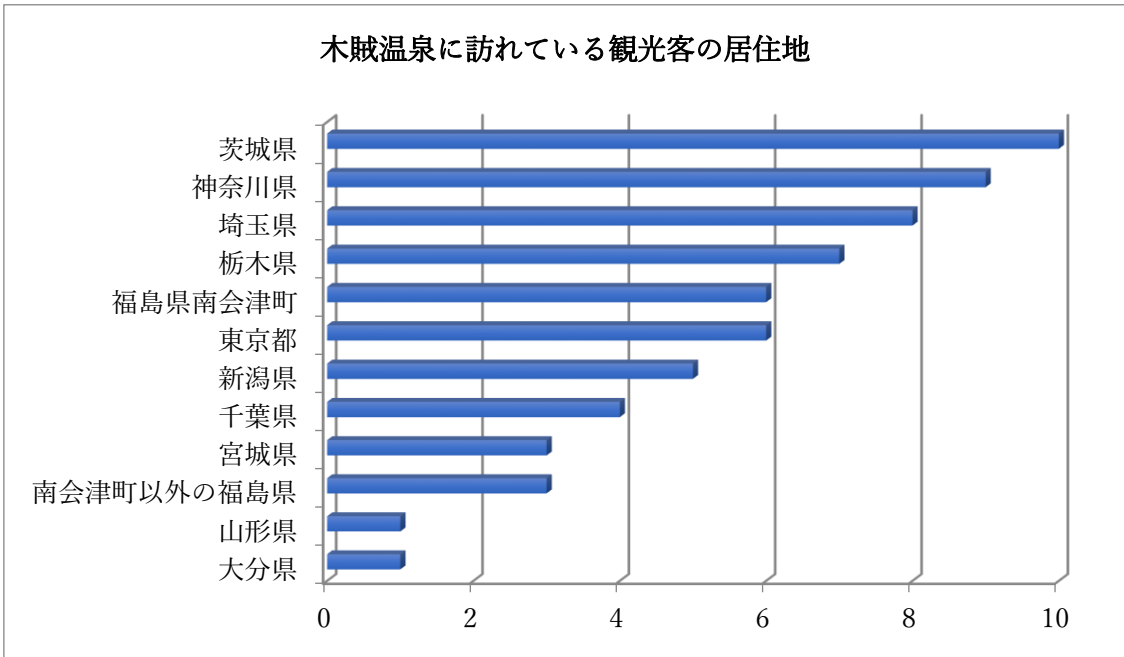
グラフ2 アンケートを元にゼミナール生作成



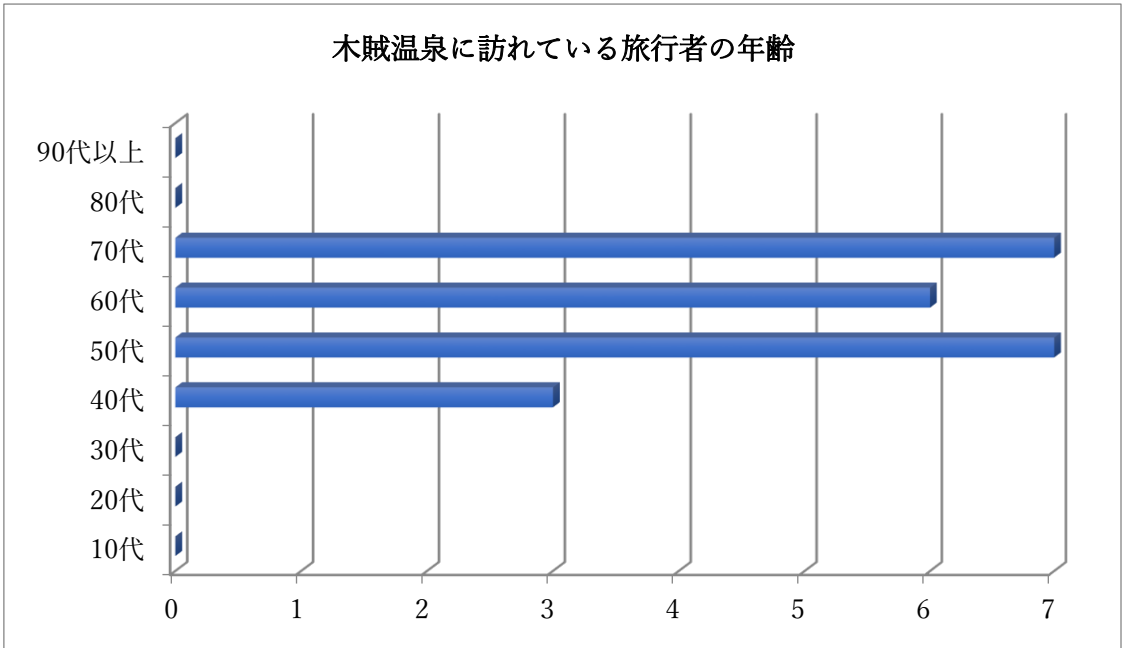
グラフ 3 アンケートを元にゼミナール生作成



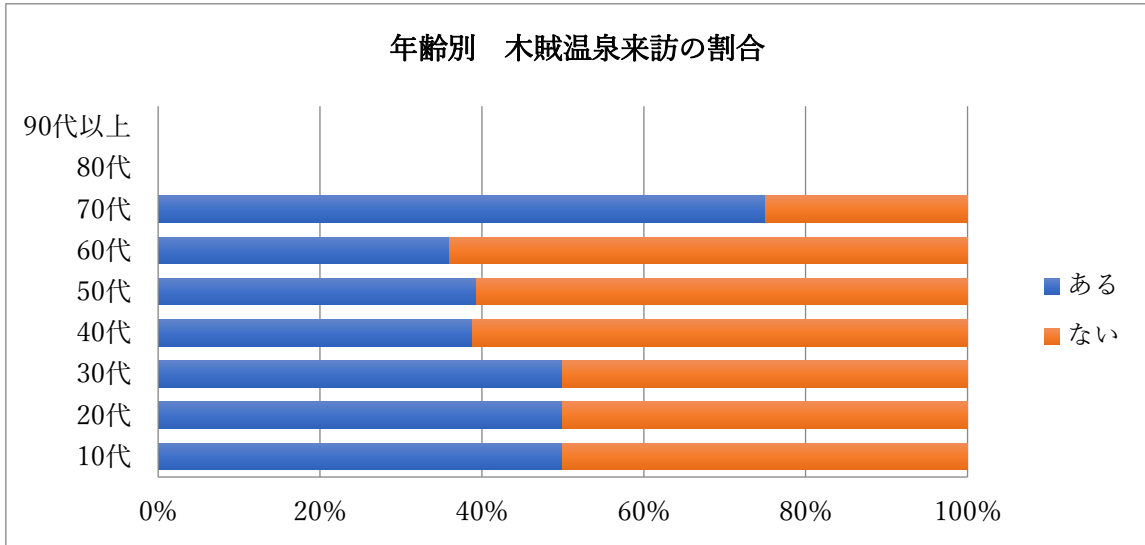
グラフ 4 アンケートを元にゼミナール生作成



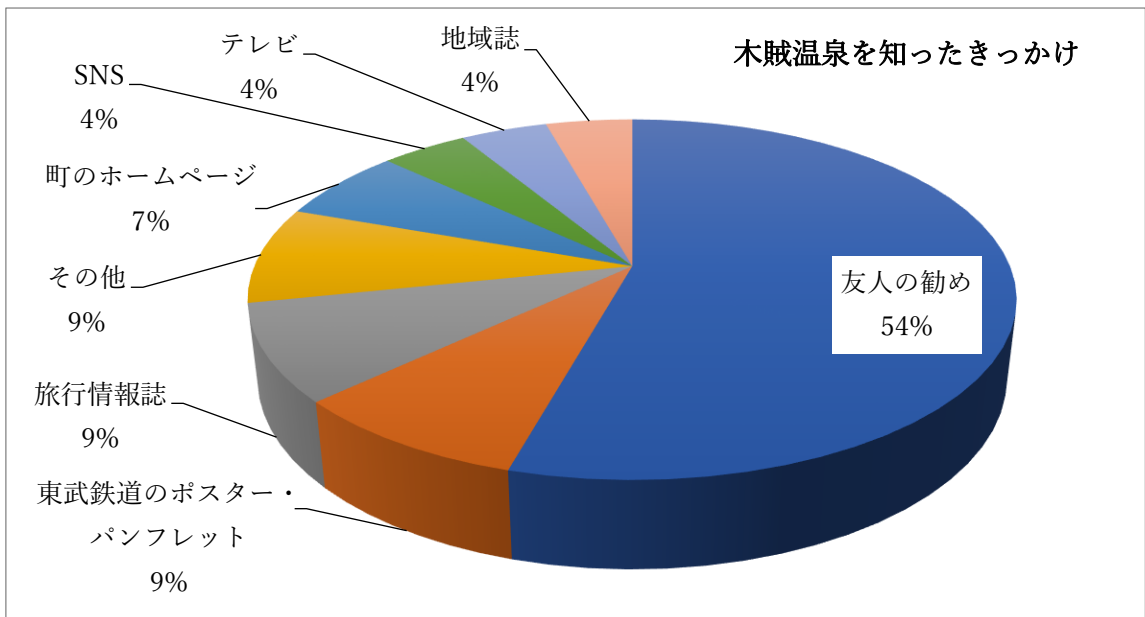
グラフ 5 アンケートを元にゼミナール生作成



グラフ 6 アンケートを元にゼミナール生作成



グラフ7 アンケートを元にゼミナール生作成



グラフ8 アンケートを元にゼミナール生作成

また、住民に対してのアンケートからは、前向きな意見や不安等も明らかになった。前向きな意見としては、観光客との交流を求めているという回答が多くあったことや、空き家を活用方法に関して、回答者の約半数が「観光客との交流の場」と答えた。一方で、ゴミのポイ捨てや、山火事など観光客のマナーに関する不安もあった。このようなことが起こらないような資源の活用が重要であるということもわかった。また、住民の方の納得のいく形を一緒に考えていくことが非常に重要であると考えた。来年度以降にこのデータを生かしていきたいと思う。

3-3. 令和2年1月17日-1月18日の調査結果について

昨年から南会津町での調査を春、夏、秋は行ってきたが、冬の南会津町の様子などは調査したことがなかったため、冬の木賊集落の様子を知ることが当初の目的であった。また、木賊地域の区長さんより令和元年の秋に発生した台風19号の豪雨による土砂の影響で崩壊してしまった岩風呂が屋根は流されたままになってしまっているものの、露天風呂の状態営業開始することが出来たという情報を頂いたため、岩風呂のその後の様子なども調査することも調査内容の一つとした。

木賊地区は南会津町の中でも特に積雪量が多い地域であるため、今年は全国的に暖冬であり、積雪量が少ないといわれている中でも雪が地域内に多く積もっている印象を受けた。(写真1を参照。)

しかし、区長さんによると例年よりも積雪量がとても少なく、過ごしやすい冬を過ごすことが出来ているとのことであった。



写真：地区の積雪の様子

(令和2年1月17日 ゼミナール生の撮影)

また、令和元年の秋に発生した台風19号の豪雨による土砂の影響で崩壊してしまった岩風呂の現在の様子を見に行くと屋根がなく露天風呂のような状況にはなっているものの、温泉を利用している男性二人に会うことが出来た。このようなことから根強いファンが岩風呂にいることが伺うことが出来た。

4. 今後に向けて

今後は、木賊集落の地域活性化のため、本年度行った調査で分かった内容を元に案を具体化しつつ実行していきたいと考えている。提案を具体化していく中でターゲットとしては今回アンケート調査の分析を踏まえ、南会津町の自然の豊かさに惹かれ、何度も訪れるような根強いファンではあるものの木賊集落には訪れたことがないという人々をターゲットにしていきたいと考えている。年代としては40代から60代にアプローチをしていきたいが、それらの年代にどのように情報発信を行い認知してもらおうかということが問題となる。

現在、南会津町を訪れた人の約5割以上の人々が木賊温泉を認知するきっかけとして友人の勧めで木賊温泉を知ったという状況となっているが、その他の情報発信手段として温泉に関する情報を載せるホームページの作成や集落の観光マップの作成などによる情報発信を行うことでさらに南会津町を現在訪れている観光客の木賊集落への認知度を高めていく必要があると考えている。

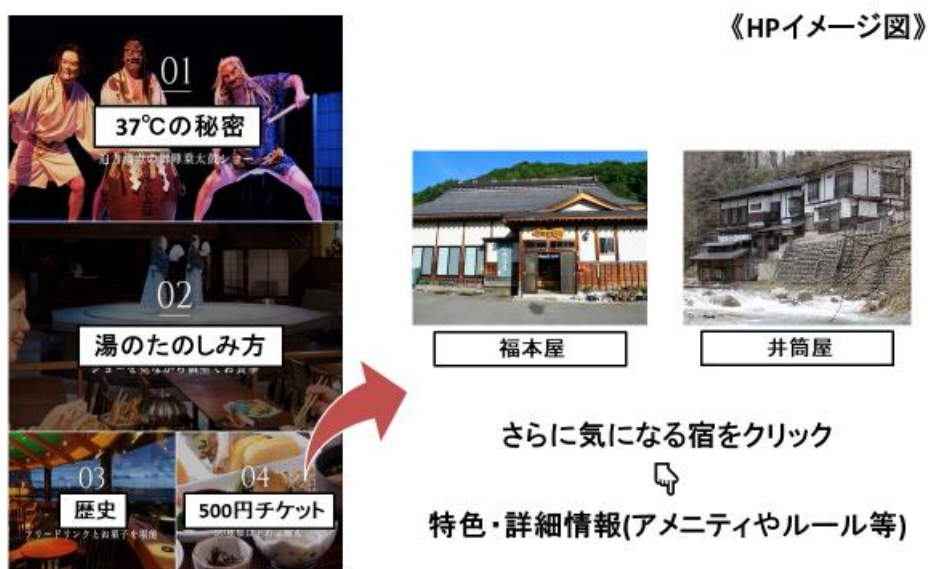


図3：ホームページの作成の例について
(ゼミナール生が調査内容を踏まえ作成)



図4：ガイドマップ作成の例について
(ゼミナール生が調査内容を踏まえ作成)

また、夏の調査の際に課題として挙げた広瀬の湯だが、現在の経営の赤字をどうするかも解決しなければならない課題ではあるものの、広瀬の湯が持続的に今後も運営できるようにするには集落内にある岩風呂のように広瀬の湯のリピーターやファンも獲得する必要があるのではないだろうか。そのためには夏の調査を踏まえた提案としてもあげた、集落内の長卸山や釣りなどのアクティビティでかいた汗を流し、疲労した体を回復させるをコンセプトに夏の間はあえてぬるま湯で運営をしてみるなどを来年度以降、行うことが出来ればと考えている。

また集落の中で増加している空き家に関してだが、空き家の所有者が倉庫や物置として利用している状態の空き家もあった。近年ほかの地域では空き家の活用法として空き家の一部活用なども行われている事例もあり、このような事例を参考にしながら空き家の良い状態の維持や尚且つ地域の活性化につながるような活用法を考えていく必要があると思われる。

木賊集落の岩風呂に関しては、ここ数年に多く発生している豪雨によって土砂に温泉が埋まる、濁流に岩風呂の屋根が流されてしまうなどの影響が出ている。こういった集落の危機があった際、災害復興に駆けつけるといった本事業の調査の中での私たちのような関係人口の仕組みづくりを行っていくことが集落の活性化にもつながっていくのではないだろうか。

本年度は調査を元に以上のような提案が考えられたが、来年度も引き続き現地視察や現地の方と意見交換会などを行っていきながら、これらの案を必ず行うというわけではなく何を行うことが集落の地域活性化の案として最も良いのかを考察しながら、できることからゼミナール生と集落の方とで一丸となって実行していければと考えている。

地域の課題は、日々の生活に直結していることから、次から次へと発生する。これらを地域の人だけで解決することは難しく、さまざまな関係者の支援が不可欠であり、地域外の人

たちとの関係づくりは必須の課題である。私たちはさまざまな「きっかけ」を活用して、地域外の人たちとのつながりを作り続けることの大切さを地域の人たちとともに学ぶことができた。今後もその経験と学びを忘れず、地域の方々と交流していきたい。

5. 謝辞

木賊集落に入り、直接住民の方と交流させていただくことや、アンケートなど住民の方の温かいご協力で調査を進めることができました。この場をお借りし、木賊集落の皆様、南会津町の皆様のご支援に感謝申し上げます。今後とも木賊集落の皆さんと東洋大学佐々木茂ゼミナールとの交流をさらに深めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力お願いいたします。

6. 参考文献・ホームページ

- ・東洋大学公式ホームページ(<https://www.toyo.ac.jp/ja-JP/>)
- ・福島県庁公式ホームページ(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/>)
- ・南会津町公式ホームページ(<http://www.minamiaizu.org/>)
- ・google マップ公式ホームページ(<https://www.google.co.jp/maps>)
- ・加賀屋姉妹館あえの風公式ホームページ(<https://www.aenokaze.jp/>)
- ・東洋経済オンライン「押し入れも！「場所ちよい貸し」で小遣い稼ぎ使わない場所をシェアするビジネスが台頭」2018年3月19日
(<https://www.google.co.jp/amp/s/toyokeizai.net/articles/amp/212985%3fpage=3>)
- ・日経ビジネス「空き家にも儲けのチャンス」『「民泊の現場」最新レポート(上)』2016年4月7日
(<https://business.nikkei.com/atcl/skillup/15/234564/040400007/>)